

Title	No. 18 : 東京歯科大学千葉病院歯科麻酔科外来症例の臨床統計 (2012年1月~12月)
Author(s)	澤口, 夏林; 若杉, 由美子; 遠藤, 真唯; 岡田, 玲奈; 征矢, 学; 神戸, 宏明; 武田, 慶子; 井出, 智子; 塩崎, 恵子; 松木, 由起子; 松浦, 信幸; 笠原, 正貴; 一戸, 達也
Journal	歯科学報, 113(2): 205-205
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/3071">http://hdl.handle.net/10130/3071</a>
Right	

## No.17: 東京歯科大学千葉病院手術室における麻酔症例の臨床検討 (2012年1月~12月)

二宮 文, 川口 綾, 岡本聡太, 久木留宏和, 岸本敏幸, 神戸宏明, 武田慶子, 井出智子,  
塩崎恵子, 松木由起子, 松浦信幸, 笠原正貴, 一戸達也 (東歯大・歯麻)

**目的:** 2012年に東京歯科大学千葉病院手術室で行われた麻酔管理症例を集計して検討した。また、術中見られた三叉-迷走神経反射について報告する。

**方法:** 2012年1月~12月に行われた手術室での歯科麻酔科管理症例を対象とし、総数, 男女比, 年齢, 麻酔時間, 手術内容, 麻酔方法, 出血量, 輸血量, 術前基礎疾患, 術中合併症・術後合併症を麻酔データベースから集計・分析した。

**成績および考察:** 総症例数は593例で全身麻酔症例(以下全麻)は586例(男性286例, 女性300例), 局所麻酔症例(以下局麻)は7例(男性5例, 女性2例)であった。全麻患者の平均年齢は平均33歳で40歳未満が363例と全体の62%を占めた。局麻患者の平均年齢は56歳であった。麻酔時間は全麻で平均3時間23分, 最長14時間, 局麻で平均1時間28分, 最長2時間40分であった。全麻症例は顎変形症手術(133例), プレート除去・オトガイ形成(116例), 嚢胞摘出・抜歯術(100例)の順に多かった。全麻の維持薬は, セボフルラン348例, プロポフォール174例, 亜酸化窒素・セボフルラン28例の順に多

かった。出血量は平均110ml, 最高1,117mlであった。輸血は48例に行われ, そのうち自己血輸血が45例であった。術前基礎疾患は220例に認められ, 循環器疾患(84例)が最も多く, 次いで呼吸器疾患(29例), 代謝内分泌疾患(29例)が同数であった。術中合併症は47例に認められ, 血圧低下(26例), 心電図変化・不整脈(12例), 血圧上昇(4例)などであった。術直後の合併症は32例であり, 主なものは術後悪心・嘔吐(20例), 血圧上昇(5例), 心電図変化(3例)であった。

今回術中合併症のうち, 三叉-迷走神経反射を3例経験した。いずれも上下顎同時移動術中であった。顎変形症の手術は, 顎骨を離断し3次元的に移動させることにより顎骨中を走行する三叉神経第二枝・三枝の圧迫・伸展が生じやすいため, 三叉-迷走神経反射を誘発しやすいと考えられる。その他の原因としては, 浅麻酔や局所麻酔不足なども考えられるが, 三叉-迷走神経反射の予防策や, 生じた際の対応について十分に熟知している必要があると考えられる。

## No.18: 東京歯科大学千葉病院歯科麻酔科外来症例の臨床統計 (2012年1月~12月)

澤口夏林, 若杉由美子, 遠藤真唯, 岡田玲奈, 征矢 学, 神戸宏明, 武田慶子, 井出智子,  
塩崎恵子, 松木由起子, 松浦信幸, 笠原正貴, 一戸達也 (東歯大・歯麻)

**目的:** 2012年1~12月に千葉病院歯科麻酔科が担当した症例について集計し, 検討したので報告する。

**方法:** 患者数, 症例数, 男女比, 年齢分布, 患者分類, 処置内容および管理方法についてレトロスペクティブに集計した。

**成績および考察:** 総患者数は2,767名, 総症例数8,312症例で, 男性1,244名, 女性1,523名, 患者の年齢層は20~39歳が32.7%と最も多く, 次いで60~79歳が27.2%, 40~59歳が25.8%であった。患者分類はペインクリニック307名2,331例, 有病者616名1,641例, 障害者521名1,632例, 歯科恐怖症患者495名1,587例, 口腔外科小手術患者394名482例, インプラント患者201名270例, 救急14名, その他219例であった。有病者の内訳は循環器系892例, 代謝内分泌系165例, 呼吸器系96例, その他322例であった。患者管理を行った症例は3,809例で3,155例が静脈内鎮静法, 吸入鎮静法は22例, モニター監視は185例, 麻酔科スタンバイは268例, その他12例であった。2012年の静脈内鎮静法の使用薬物の内訳はミダゾラム単独で435症例, プロポフォール単独で434症例, 両薬物の併用症例2,264症例, その他22症例で

あった。

外来における全身麻酔の総症例数は165例で前年と比較すると5例の増加がみられた。そのうち日帰りは124例, 入院は41例であった。男性は106例, 女性は59例であった。内訳は歯科恐怖症患者56例, 口腔外科小手術患者17例, 障害者53例, 非協力患者32例, 有病者7例であった。年齢の内訳は0~19歳114例, 20~39歳38例, 40~59歳11例, 60~79歳2例であった。術中合併症は3件, 術後合併症は1件であったが重篤な合併症ではなかった。治療内容の内訳は抜歯が88例, その他外科処置が11例, 齶蝕処置が48例, 歯内, 歯周処置が27例であった。外来での全身麻酔の症例数は年々増加傾向にある。その理由として, 2010年に全身麻酔器を1台増設し, また多機能診療室の開設により従来の診療室を全身麻酔で使用できるようになったことで, 全身麻酔を並列で実施でき, 効率的な運用が可能になったことが考えられる。今後も外来における全身麻酔の安全性を確保し, 他科との連携をより一層強固にして質の高い高度な医療の提供を続けていきたい。